

<p>研修成果の活用レポート/NITS 大賞エントリーシート</p> <p>※研修成果の活用レポートは、NITS 大賞エントリーシートと同様式です。NITS 大賞に応募される方は、推薦者への提出とは別に、<award@ml.nits.go.jp>宛て、メールにてお送りください。なお、メール送信後、3 日以上受領メールが届かない場合はご連絡ください。</p>	<p>※事務局記入欄</p> <p>受理No. : C-34</p>
<p>【学校名・氏名】 鹿角市立八幡平中学校 中村 史子</p>	<p>【応募部門】 地域とともにある学校実践部門</p>
<p>【修了研修名】 平成 30 年度 第 3 回副校長・教頭等研修</p>	
<p>【活動名】「ふるさと学習」マンネリ化からの脱却を目指して</p>	
<p>解決すべき課題：※活動を行う前に、どんな課題設定をしましたか</p> <p>秋田県・鹿角はふるさと教育には長い歴史をもつ。昨今の人口減少、少子化の加速を受けてその重要性は増すばかりである。また、それ故に地域的課題には多種多様な解決策が考えられる。本研修で出会った数々の名言の中から「地域創生の核として地域の課題を 1 つ 2 つ解決して卒業しよう」を今年度のふるさと教育に取り入れ、「発信」で止まっているふるさと学習のマンネリ化を打破し、地域とともに課題解決していく学習を提案する。</p>	
<p>目標・方針：※課題を解決するためにどんな目標や計画、戦略や方針をたてましたか？</p> <p>現在行われている「ふるさと教育」を土台にして、生徒のアイデアを実現していく中で地域や関係機関と協力していくことを生徒・教師ともに学びながら活動を作り上げる。生徒の主体的な活動を教師が支えていく形をとる。地域的課題の解決に向けて行われる生徒の主体的活動は、時間割に組み込みにくいものが多いため、今年度は「会社」を設立し休み時間に会議を行ったり、放課後に集合して活動したりする。毎年行われている「将来を考える会」で今年度の活動報告を行い、来年度は未解決の課題の解決や新たな課題の解決に向けて活動を継続する。これまでの「発信」にとどまらず、具体的に活動していくことで持続可能な活動ができる。</p>	
<p>活動内容：※何を行ったか、具体的に記載してください。</p> <p>1, 地域の課題解決に向けて「会社」を造ろう（3 年生が会社を設立。1, 2 年生に社員を募る）</p> <p>(1) 前年度「将来を考える会」で提案された、地域の将来に向けての提言の中から、実現したい内容を決め、同志を集めて会社をつくり、理念を明確にして活動を計画する。</p> <p>(2) 1, 2 年生は履歴書を提出し、面接を受け入社する。</p> <p>2, この後の活動は会社に任せる。月に 1 度、社長会議を昼食会で行う。</p> <p>3, 7 社が設立され、活動を開始する。</p> <p>(1) PR 会社（2 つ）：HP 作成。地域の温泉・ホテルへの呼びかけと協力依頼。ボランティアガイドの際の記念品作り。タウン情報誌作成。観光地「早駕籠」構想。</p> <p>(2) 地域食材レシピ開発：地域の食のイベントとコラボ。公民館行事との連携。レシピ開発。</p> <p>(3) 耕作放棄地開発計画：耕作放棄地の調査。地域の方のレクチャ。農地の借り入れ・作付け。</p> <p>(4) 観光と食材：八幡平頂上付近の外来植物「たんぽぽ」を駆除し、お茶作りに活用。</p> <p>(5) ボランティアガイド上達塾：コミュニケーション力を高め、観光客を引きつけるガイド力習得。</p> <p>(6) 福祉施設との連携：保育園での絵本の読み聞かせ。老人福祉施設訪問。</p> <p>4, (この後の活動) 1 2 月までの成果をまとめて、1 月「将来を考える会」で報告。</p>	

活動の成果： ※それによって、どんな成果が得られましたか？

- ・「おとなしい」「素直だが、受動的」と思われていた本校生徒が自主的に計画し活動に取り組んでいる。
- ・これまで「時間が」「方法が」「内容が」と活動に難しさを感じていた教員が、生徒たちの会社の活動に対して「もっとこうすれば」という前向きな考えに変わってきた。
- ・生徒が地域で行われている様々な産業・イベントに興味・関心をもちはじめた。
- ・生徒の主体的な活動には、簡単にできないことや乗り越えるべきハードルが次々に見えてくるが、それらを乗り越える中で関係機関や地域住民との交流が生まれてきている。

アピールポイント（アイデアや工夫）：

- ・本校は「八幡平ボランティアガイド」いう大行事をもち、生徒も意欲的に取り組んでいる。ここに多くの時間が割かれるため、それ以外のふるさと教育には時間をかけることができない。生徒主体の会社経営であれば、自分たちで時間を確保して活動することが可能である。
- ・近年の地域での大きな課題は「熊対策」である。「熊」との共存は喫緊の課題であるが、専門家とよばれる人がとても少ないことが特徴である。「熊対策」を研究して実践し、中学生が地域貢献できたら素晴らしいことと思う。「会社」の設立は、まだまだ可能性を残している。

活動内容の紹介

1, 2 年生に会社説明会を行う 3 年生

地域団体とセイヨウタンポポの駆除活動

タンポポを洗って選別。お茶作り

他校とのボランティアガイド交流

保育園で読み聞かせ

講演会とコラボしてガイド紹介